

〔烏川〕

烏川は、利根川の規模の大きな一次支川であるとともに、高崎市を背後地とする重要河川である。明治43年と昭和10年には破堤を伴う大水害を受け、これを契機に中流部から下流部にかけて2～4mの高さの堤防が築かれている。また、烏川沿川の土地利用が進展し、無堤部においても宅地化が進んでいる。このような河川状況から烏川の将来目標を1/100の安全度とする（河川整備計画策定の考え方（平成12年群馬県策定））が、過去に築堤された堤防の一部は所定の規格、安全性を有していない事や、無堤部等については流下能力不足の箇所が点々と存在する。このため、ダムにより全区間に亘って安全度の向上を早期に図るとともに、当面の目標としてダムによる洪水調節後も1/50の安全度に達しない区間について、本整備計画に盛り込み河川整備を実施する。

なお、ダム施設については再改築が困難なことから、将来目標を見据えた規模で工事を

地域区分	掘込河道		築堤河道	
	基本	当面	基本	当面
都市地域	1/50	1/30	1/100	1/50
一般住居地域	1/30	1/10	1/50	1/30
田園地帯	1/10	1/5	1/30	1/10

（河川整備計画策定の考え方 H12 群馬県より）

また、ダム施設により景観や水質、動植物の生息・生育を配慮した水環境の保全のため、かつ、河川水の利用が支障なく行われるために最低限維持する流量として、上里見地点において約3 m³/s（かんがい期）を確保する。

・倉淵ダム

施工の場所	蛇淵橋上流部		
型 式	重力式コンクリートダム	堤 体 積	約 5 6 万 m ³
堤 高	約 8 5 m	総貯水量	約 1 , 1 6 0 万 m ³
堤 頂 長	約 3 8 0 m	湛水面積	約 3 9 h a
総事業費	約 4 0 0 億円		

目 的

洪水調節

ダム地点の流入量 4 0 0 m³/s のうち 3 0 0 m³/s の洪水調節を行い洪水被害を軽減する。

既得用水の安定化・河川環境の保全

既得用水の補給と河川環境の保全を図るため安定した河川流量を確保する。

水道用水の確保

高崎市の水道用水として 6 3 , 3 3 0 m³/日の安定水源を確保する。

高崎市水道内訳（将来）

水 源	水量 (m ³ /日)	備 考
倉淵ダム	6 3 , 3 3 0	一部を暫定水利権として運用中
県央第一水道	6 8 , 9 0 0	矢木沢ダム・奈良俣ダムによる
群馬用水	1 5 , 0 0 0	〃
烏川表流水	2 3 , 9 3 0	
合 計	1 7 1 , 1 6 0 (1 6 0 , 9 3 0)	取水量ベース (給水量ベース)

環境への配慮

烏川上流域は特に豊かな自然が残されているため、自然改変を最小限にとどめ、植生の保全に努めるとともに、工事中においては、騒音、振動、下流に対する濁水対策等を行い、周辺環境に配慮する。



平面図(縮尺: 1/25,000)

